

第 231 回番組審議会 議事録

開催日 2019 年 6 月 18 日（火）

出席者：湯川れい子委員長、亀渕昭信委員、西田善太委員、攝待卓委員、井手口彰典委員

1、

議題（審議番組）： 「Reborn-Art Festival Radio Supported by 木下グループ」

放送日時： 毎月最終土曜 19:00 - 20:00（*8 月は毎週土曜）

DJ： 小林武史

会社からの説明

宮城県の牡鹿半島と石巻市街地を舞台にした、「アート」「音楽」「食」を楽しむことのできる総合芸術祭「リボーンアート・フェスティバル」のオフィシャルラジオ番組。

実行委員長 小林武史やアーティストを含む複数のキュレーター、地元の方々が発信する「いのちのてざわり」を声と音楽で届けていきます。

委員からの意見・感想

審議委員 A

番組コンセプトも内容もよい。イベント開催地の雰囲気が伝わり、自分自身も現地へ行ってみたいと感じた。若い世代や学生たちが石巻に出掛けるきっかけになりうる番組だと思う。楽曲はどれも耳に心地のよいものだった。ただ、コンセプトである“いのちのてざわり”と選曲の関連性がいまひとつ掴めなかった。また、ナレーション裏の「ノイズ」や対談の前のトークダイジェストも必要性を感じなかった。ラストの住民のコメントは尺をコンパクトにして、より多くの人の声を届けたほうが良いと感じた。

審議委員 B

タイトルから、企業の事業イベント PR の側面が出てきてしまうものかと思ったが、宣伝感がなく好感を持てた。小林さんと現地の方の語りもシンプルで、素朴さが出ていてよかった。途中、キュレーターの手掛けた作品について触れていたが、番組のサイトにもその作品の画像が掲載されておらず、興味があったので残念だった。選曲のコンセプトは掴めないところもあったが、全体的な BGM がよかった。今後も、「現地に行って声を拾う、伝える」というライブ感がある展開を期待したい。

審議委員 C

しっかりと編集・構成された番組。制作者側に「伝えたい」「伝えよう」という強い目的意識を感じる。小林武史さんのプロジェクトに対する真っ直ぐな姿勢が言葉になっているところや、選曲もいい。また、リラックスした収録シーンが想像でき、いい具合に DJ やアーティストら出演者の魅力を伝えている番組だと思う。最後の地元の人声もよかった。一般の人がアートの祭りを気にかけてる様子が伝わり、その場にいたいと思える演出がなされていた。

審議委員 D

誰に向けて放送したいのかというのがわかる、リスナーターゲットがはっきりとした番組。イベントに参加してみたいと思っている人の背中を押してあげるような語り口がとてもよかった。ただ、全体的には、専門家二人のトークになりがちで、関心のない人を引っ張りこむには何かが足りないという印象。起承転結を意識し、前段で全体の構想や企画意図などをきちんと伝えられると、より判りやすくなったように思う。また、最後に登場した現地の方々の声のパートでは、「故郷紹介」だけでなくリスナーへの語り掛けをしてみると、よりリアルで心動かされるものとなったのではないだろうか。

審議委員 E

特殊な番組。一般リスナーにはとっつきにくい内容と感じた。頭の説明が非常に長く、途中で聞きたくないと思ってしまった。こういった番組では、イベントの認知と誘導の意思をどういう形で伝えるかという、順序（起承転結）が大切。オンエア楽曲に関しては、小林さんの選曲であることをしっかりと伝えるべき。楽曲紹介がなかったのも残念だった。ラストに現地の人声の音が聞こえたことで救われた印象。小林さんの声はラジオ向きで良い声だった。

—会社側の回答

番組に対する評価、改善・要望などの意見を真摯に受け止め、より質の高い音楽番組の制作に向け改善を図る。

以上